

岳連
ニュース

宝永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成29年9月4日発行
第22号



本年度は、静岡県の開催で、7月15日にボルドリングを浜松のクライミングジムC R A G、16日にリードをスクエアクライミングセンターにて行いました。

チーフルトセッターには山口県の茂垣氏を迎え、成年女子1枠、少年男女各2枠の国体代表権にむけて熱戦が繰り広げられました。

C R A Gで開会式の後、引き続きボルドリング競技が行われ、少年男子では、静岡の片桐が唯一4課題4完登を決め、原の

2完登と合わせて6完登で愛知県と並んだがアテンプト数で下回り2位。成年女子も、静岡の北脇が唯一の4完登を決め会場を沸かせたが、少年時代国体優勝の三重の田嶋義村のペアに完登数で及ばず2位、少年女子も、完登が1にとどまり、3位のスタートとなりました。

翌日会場をスクエアに移して、少年男子と成年女子は共通の13bのルート、少年女子は12cのルートでリード競技が行われました。



少年男子は、静岡の片桐、原の両名は、ルーフの部分で抜け傾斜が変わって、フオール、成年女子の北脇、中村の両名はルーフの途中でフオールし2位、少年女子も、横田が健闘したが3位となり、少年男子が総合2位で国体の出場権を得ました。

ユース世代の底上げで、東海ブロック大会においても、全国規模の大会で活躍する選手が多く見られ、非常に競技レベルの高い大会となりました。

このような選手の集う大会

ブロック大会成績			
	成年女子	少年男子	少年女子
1位	三重県	愛知県	愛知県
2位	静岡県	静岡県	岐阜県
3位	岐阜県	三重県	静岡県
4位	—	岐阜県	三重県



会に素晴らしいルートセッターをしていたいたセッターの方々、会場を提供しご協力いただいた、スクエア、C R A Gの各ジムの方々に感謝したいと思います。

結果は、成年女子2位(北脇、中村)、少年男



成年女子	監督	中村 光孝	榎角孝中村土建
	選手	北脇 順子	日本体育大学
	選手	中村 祐香里	中京大学
少年男子	監督	岩田 幸裕	浜松学芸高校
	選手	原 賢伸	浜松日体高校
	選手	片桐 綾真	磐田市立豊田中学校
少年女子	監督	難波 利行	県立葦山高校
	選手	佐伯 周音	県立富士高校
	選手	横田はるな	浜松日体中学校

静岡県選手団

子2位(原、片桐) 国体出場、少年女子3位(横田、佐伯)

(諸戸 明)

南ア夏山相談所開設

単独登山者が6割を占める

南アルプスの夏山相談所が、7月15日から8月31日までの48日間、畑薙臨時駐車場で開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣し井川山岳会の会員と静岡市岳連

東海4県会議

29年度の東海ブロック正副会長理事長会議が、静岡岳連の担当で、6月17日、18日焼津市の「やいづマリンパレス」で開催された。

この会議は各県持ち回りで例年開催されており、各県の現状報告や抱えている諸問題につき協議し、対応を考え、併せて、4県の交流を深めようとするものである。

会員の高齢化、団体数の減少、若い人が入って来ないなど、各県とも共通の問題を抱えている現状がある。スポーツクライミングが脚光を浴びて



従来型登山がどうなっていくか心配だ。との意見が出た。岐阜では今年若返る山岳連盟を目指す方針を出し、個人会員担当の40代の常任理事を設けたという。各県、これらの問題解決に取り組んでいるが、抜本的解決に至つていないのが現状のよう

6月常任理事会

平成29年6月12日(月) 18時30分〜20時30分
場所 労政会館 5F 会議室

出席者 滝田博之、清水雄三、木ノ内高嘉、出利葉義次、諸戸明、豊田稔、工藤誠志、松永義夫、増田浩二、市川隆夫、内海廣治、坂田昇、堀内修、鈴木修、田中保広、浅井徹計16名

内容
会長挨拶
①公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協



一時不通になるなど、登山者は例年に比べ少なかった。

年々、単独登山者や

女性の登山者が増え、事故も多発しているが、登山届を集計してみると約6割強が単独登山者であった。事故は、亡くなった方は1名で赤石岳や聖岳等で転倒し骨折したり疲労で動けなくなるなど、中高年登山者の特有の事故が多発している。

(滝田博之)

会は20年創立60周年記念事業があり募金活動を行う

②第11回しずおかスポーツフェスティバル登山大会は創立70周年記念山行とする、また山の日記念事業も兼ねる為、多くの参加を願います。

③創立70周年記念事業
・記念誌の発行
この10年間の記録とする。

・記念祝賀会の開催
18年1月予定

(1)報告事項
①指導委員会
・日本山岳・スポーツクライミング協会 指導員
総会6月3〜4日
指導者資格の区分改革案

・コーチⅠ(指導員) コーチⅡ(上級指導員) コーチⅢ(教師、競技者育成) コーチⅣ(上級教師) 競技者層、競技者志向層と愛好者層、健康志向層に区分。

・指導員制度の変革の協会の方針
指導員の専門科目の集合時間
20時間→40時間に
・指導者の自主研修 5月21日
興津生涯学習館にて実施3名
他配布資料にて報告(工藤)

②国体委員会 東海ブロック大会
・ボルドリング、7月15日、リード16日
静岡岳連が担当し開催開催する。大勢の競技役員が必要となるので、ご協力をお願いいたします(諸戸)

③中高年安全登山講習会「東部地区」
開催要項に基ずく説明運営に当たり8〜9名協力をお願いいたします
④18年カレンダー
世界の名峰 サンプル見
9月申込書、10月発送予

定
⑤個人会員 現在8名
今年はこのまま行く
(滝田)

(浅井徹)

編集後記

最近の静岡新聞が小中学年代のスポーツクライミングの競技熱が高まっていると報じた。20年東京五輪の正式種目に採用されたことでメディアに取り上げられ、認知度が向上し、親も子どもの習い事の一つとして定着し始めたという。

今年の国体予選会を見ても、小中学生の参加が多くなり、少年女子では、上位を国体参加年齢に達しないオープン参加の中学生が占めるという現象が起きている。

こうした流れを競技力向上に繋げていくには、どのような体制を作ればよいか。指導体制、強化体制など、岳連だけでなくクライミングジム、保護者などとの関係づくりを考えながら整備を進めていく時期にきているのではない。

(TK)

針ノ木岳 蓮華岳へ 夏山登山教室

座学から実践登山へ コマクサに感動

指導委員会主催の「夏山登山教室」も今年で第5回目となった。この行事を中心に企画・運営していた小田さんの遺志を継いで今年も無事行うことが出来た。

参加メンバーはリピーターも多く、予定定員の15名となった。今年のメインの山行は北アルプスの針ノ木雪溪をつめて、名峰・針ノ木岳と蓮華岳を目指した。

内容は第1回座学で「夏山の登山装備」と「読図の基本」を学んだ後に、第1回実技講座は「亀爪山」で行った。座学で習っ



た登山装備の確認と、読図の実践を山にて行った。また、今年は残雪が多いと予想されたので、アイゼンの確認も穂積神社にて行うことが出来た。

第2回座学では「夏山の気象」と「歩行技術と安全」を学んだ。特に雪溪の歩き方について重点的な講習だった。

本番の夏山は7月22日、23日で金曜日の前夜発にして、途中の道の駅にて仮眠した。針ノ木雪溪はやはり例年より雪が多く、長い雪溪歩きとなったが全員元気にほぼ予定通り針ノ木峠につくことが出来た。小屋で休憩後に針ノ木岳をピストンした。途中は意外にお花も多く、皆さんも満足されたようだった。夕食前の小屋の前の反省会では、リピーターの方々が「小田先生に献杯しましょう」と言ってくれたのが嬉しかった。美味しいビールを飲みながら有意義な時間を過ごすことが出来た。



翌24日は朝から雨だったが、ほぼ全員が蓮華岳をピストンした。お目当てのコマクサには皆さん感動されていた。心配していた雪溪の下りも上手なアイゼンワークで、予定より早く下山することが出来た。

下山後の温泉では、「来年の夏は何処？」との質問も受けました。好評の登山教室でした。

(鈴木 修)

遭対委員総会

平成29年度の山日協遭対委員会総会・研修会が神戸市立神戸セミナーハウスにて6月24日・25日開催された。

24日研修会

(1)「ドローンの活用について」
ドローンの説明を受け、実際に操作した。

(2)「ハイキングリーダーについて」

一般登山者への登山教育について、現状、見直し案の対比、課題、対応策、スケジュール、夏山リーダー講習案などの説明

(3)「最近の山岳事故について」

各県からの報告
・那須の雪崩遭難事故について

25日総会

(1) H28年度報告、H29年度計画

・28年度夏山レスキュー講習会

9/9～11 富山県国立登山研修所

・積雪期レスキュー講習会
1/27～29 谷川岳土合山の家

(2) H29年度新体制遭対委員長 群馬県 町田氏



(3)研究討議

・山岳事故報告・・・青山氏

・高校登山講習会事故について

登山に関する知識・経験の少ない高校生を指導する場合、冒険性でなく、安全性を第一とした指導計画が求められる。

・山岳三団体(山日協、労山、JRO)における事

故の経年変化
山岳3団体においても、遭難事故は右肩上がりに増加し続け16年には千名を超えた、死亡事故は変化なし。

・登山者人口の経年変化
登山者人口は09年をピーク(1230万人)とし、11年の大震災で800万人に減少し、その後、800万前後で変化している。

・16年警察庁の事故データ

H28の事故報告の特徴は、震災を除き、長い間右肩に増加し続けてきた事故発生件数、事故者数が減少に転じたこと、その主な要因には、登山ブームが低調になり、道迷い、悪天候(H28が恵まれた?)などの事故が減少したことにある。以前から予想してきた登山者の超高齢化の影響(登山団塊の高齢化)かどうかは、もう少し様子を見る必要がある。

・山岳事故データベースからの解析

・指導・遭対合同研修会報告・・・町田氏

(堀内 修)

全国高校総体蔵王月山で 藤枝東(男子)健闘6位入賞、連覇を目指した富士(女子)は悔しい7位！

全国高等学校総合体育大会登山大会が7月30日～8月3日に山形県の蔵王、月山を会場として行われた。静岡県からは、男子は藤枝東高校が3年ぶりの出場、女子は昨年初出場ながら全国を制した富士高校が2年連続出場した。

天候に恵まれず、山中

行動1日目の月山、2日目の蔵王龍山コースは雨であった。選手は精神的にきつかったであろう。特に初日の月山山頂は、風雨にさらされて低体温症の危険がある状態であった。登山最終日は、途中から天候が回復し、熊野岳から望む蔵王のシンボルお釜に選手達は歓喜し



ていた。

結果は男子の藤枝東が6位(46チーム中)、女子の富士が7位(45チー

ム中)であった。ある程度静岡県の競技力の高さを示すことではきたと思う。両チームともさらに上位に入る力を有していただけに、手放しでは喜べない。男女とも20カ所ある読図ポイントを1つ外してしまったことが非常に痛かった。両校より上のチームはほとんど読図が満点である。改めて、読図力の重要さを痛感した。富士は連覇を狙ったが、読図以外にも細かいミスがいくつかあり得点

回開催し、この7月で第149回目となり、次回は記

念の150回となる。

昭和50年代には、国体への出場が挙げられる。また、そのころから海外登山にも挑戦し始める。

昭和35年頃より自主的に富士山測候所太郎坊の小屋を借りて、遭難救助訓練を行いつつ登山者に安全登山を呼びかけるなどして、現在の富士山パト

御殿場山岳会

会長 堀内 修

を築いた。
そして静岡
県山岳遭難
防止対策協
議会東富士

支部の発足と共に、年末年始及び春山のパトロー

ルを実施している。

平成5年6月御殿場市体育館の外壁にフリークラ
イミングボードを、全国に先駆け公共施設に取り
付けた。「ゴテンパウール」と名付け広く市民



を伸ばすことが出来なかった。入賞に1点足りなかった。ゆとりのあった体力で1点も引かれており選手にとっては不満が残る

に開放され、クライミングの楽しさを味わって貰っている。その「ウォール」も体育館の耐震補強工事の為、今年10月末をもって終了となり非常に残念である。平成31年春には体育館室内にて、「ポルダリング」ができるので期待している。

当会の歴史は62年、この間の各種山行から「こ

れから」を推察すると明るい展望は見えない。何

故ならば、予想以上に早く高齢化は当会にも影響

を与えている。年齢については、10年前までは、

40代、50代が中心の市民ハイキングであったが、

最近では60代、70代が多くなってきている。当会

も多分にもれず、若年会員は転勤族や自営業で

一家の柱としての責任から山離れが進んでいる。

年金族は体力が落ち、人を連れていく自信がなく、

個人山行が多くなり。一昔前はすぐに若者の入会

を迎えることができたが、それもままならず。だ

が、あまり悲観的にならずに、今まで以上に知恵

を絞って活動を続け、同好の士を増やし山を通じ

ての交流を図っていきたい。

結果であったと思う。
大会結果(6位まで入賞)
男子 1位 長崎北陽台
(長崎) 2位 千葉東
(千葉) 3位 村山産業
(山形) 4位 修道(広
島) 5位 神戸(兵庫)
6位 藤枝東(静岡)
女子 1位 盛岡第一
(岩手) 2位 大村(長
崎) 3位 山形西(山形)
4位 渋川女子(群馬)
5位 千葉東(千葉)
6位 就実(岡山)
7位 富士(静岡)
(清水雄三)